

中小企業家しんぶん

北海道版
第393号

一般社団法人
北海道中小企業家同友会
〒060-0906 札幌市中央区北一条西4丁目13番
電話 (011) 702-3411(代)
(毎月15日発行)
昭和54年1月20日 第三種郵便物認可

主な記事

- 米澤通商 米澤輝和社長・講演 (2面)
- 1世紀企業 菅原組(旭川) (4面)
- 新支部長に聞く 2支部 (5面)

熱い講義で学ぶ喜び実感

第72期同友会大学



卒業生と講師・役員が晴れやかに記念撮影しました

9月24日、第72期同友会大学卒業式が札幌市内で開かれ、道央圏や釧路、東神楽など各地から受講した25社31名全員が揃って卒業しました。全員卒業は2期連続。10001年1月開校以来の卒業生総数は、2706名となりました。

31名全員卒業 社会を変える担い手に

藤井幸一代表理事が開会挨拶し、福山恵太郎学長が式辞を述べ、講師の押谷一朗農学博士、福田直之札幌総合法律事務所弁護士が祝辞を述べました。額装された大きな卒業証書が福山学長から卒業生へ手渡されると、感

採用難時代、連携が不可欠

共同求人委、学校教職員と懇談会

全道共同求人委員会は8月30日、恒例の学校教職員と企業との懇談会を開催しました。学生の就職活動の現状を学



学校・企業がグループ討論
札幌や道内で就職しており、地域企業との連携が不可欠」と語りました。その後1グループに分かれ「就活生の現状と企業の課題」をテーマにグループ討論しました。就活早期化で多くの学生が振り回され不安や焦りを感じており、就活を早く終わらせようと企業研究が不十分のまま就職し早期離職が増えていると語りました。学校から「アルバイト代わりでなく、働くこと生きること」を伝えるインターンシップを実施してほしい」との声もあり、企業との取り組みについて忌憚りの意見交換となりました。

参加者から「もっと双方で話し合う場が必要」「学生と企業が働くことや社会課題を共に考える機会を」「キャリア講座や授業への講師派遣で地元企業を知る機会を増やそう」などの提案が寄せられました。

音更町で収穫感謝祭

4000名が秋の味覚を満喫

とち支部農業経営部会



来場者は秋の十勝を五感で楽しみました

【音更】とち支部農業経営部会は9月25日、音更町アグリアリーナで第34回収穫感謝祭を開催。会員や社員、地域住民ら約4000人が十勝の味覚を満喫しました。この感謝祭は、十勝の農業や農業者への理解を深めてもらうことを目的に、農業経営部会が発案した。2009年から毎年開かれていますが、目玉企画の「十勝食べ比べ本勝

気流

9月5日、全道政策委員会主催で「取引適正化セミナー」が開催され、公正取引委員会の担当者より価格転嫁に関する取り組みについて解説がありました。公正取引委員会がまとめた調査報告によると、原材料価格の転嫁率は80%、エネルギーは50%である一方、労務費の転嫁率は30%にとどまり、労務費の転嫁が進んでいない現状が浮き彫りとなりました。この状況を受け、公取委は「労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する指針」を公表し、発注者・受注者に対して労務費の転嫁を実現するための行動を求めています。中小企業において労務費の転嫁が進まない背景には、大企業との取引で適正な価格設定が難しいといった課題がありますが、賃上げを実現するためには企業の自助努力による経営基盤の強化も必要です。政府が打ち出している中小企業への支援策は、企業の競争力や生産性を向上させることで成長する企業を増やし、賃金を積極的に引き上げる企業を支援することです。これでは、成長分野に参入できない企業は今後さらに厳しい経営環境に直面していくでしょう。だからこそ、社員と共に新たな活路を求め変革を遂げ、持続的な成長と賃上げを実現することが求められます。未来を見据えた経営を行うためには、経営者が謙虚に学び、中小企業家としてのマインドを高め、国民や地域と共に歩む道を切り開いていくことが求められているのではないのでしょうか。